

コラム

線を引くこと

今日は道場で実践すべき基本的なことについてお話させていただきます。

私が大切にしている基本的なことは3つです。

一つは明るい挨拶、もう一つは整えることです。いずれも『行いには心が伴う』という私の武道論が元になっています。”行い”を変えて”心”は変わります。どう生きていくべきなのかを考えると明るく前向きに生きるべきだと思います。そのために人との関わり合いの基本となる挨拶は明るく行うべきです。たとえ気分が沈んでいたとしてもです。沈んでいるから沈んだ行動をしていると、本当に沈んでしまいます。

また整えることが武道の基本です。礼を整える、これは作法です。道着を整える、言葉を整える、型を整える。全ては心を整えるためです。

今日は最後の一つ、『線を引くこと』について掘り下げていきます。

線を引くという事は、『あなたと私は同じではない』ということです。しかし人間は同じになりたがりです。なぜなら楽しいからです。分かりやすい例が”友達付き合い”です。当然ですが、それはそれでとても大切なことです。生きるうえで友達は必要不可欠です。しかし今テーマとしているのは武道を修練する上で何が必要かということです。修練するという事は自分を成長させることが目的です。しかし友達付き合いで成長できるでしょうか？それは難しいと思います。相手と自分の間に線を引き、”違い”を明確にさせてこそ、”自分”も明確になり、これからの”なりたい自分”との違いも見えてきます。

つまり、線を引くことは”成長の条件”です。

では道場で”線を引くこと”を実践できることが何かを考えてみます。

それは『礼儀』です。目上の方に対して明確に線を引くことが出来ます。

道場のあり方も様々ですので、先生と練習生が友達関係に近いこともあるかと思いますが、しかしそれを否定する気はありません。ただ目的と手段は合わせるべきだということです。

成長を求めるのであれば礼儀をしっかりと実践するべきだと思います。礼儀とは堅苦しいと思われがちですが、礼儀とは本来、日本人にとってカッコいいものです。この価値観は広めていきたいと思っています。

最終的には成長するために、自分の中でも線を引く必要があります。ここまではOK、ここからはNG、どんどん自分の中に線を引いて、自分を制限していく必要があります。

水に例えると、同じ体積でも面積の広い皿に水を入れると水は横に広がります。逆に面積の狭い筒のような容器に入れると水は高いところまで行きます。

人間も同じことだと思います。そして目に見える自分と相手の間に線を引けない者が、目に見えない自分の中に線など引けるわけがありません。

成長を望むのであれば、まずは礼儀を道場で実践してみてください。

(社)日本 ITF テコンドー協会
理事長 岸玄二

2019年9月22日 第5回関東大会にて